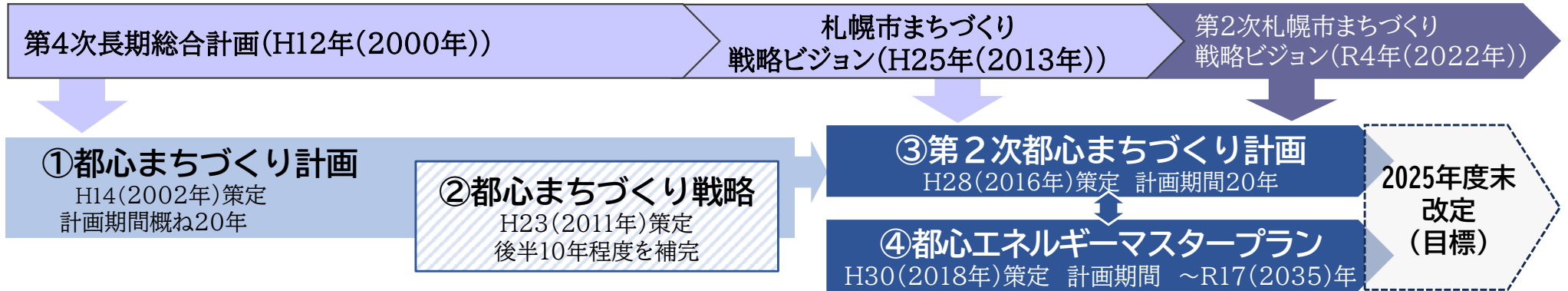


(2)次期都心まちづくり計画の検討状況について 目次

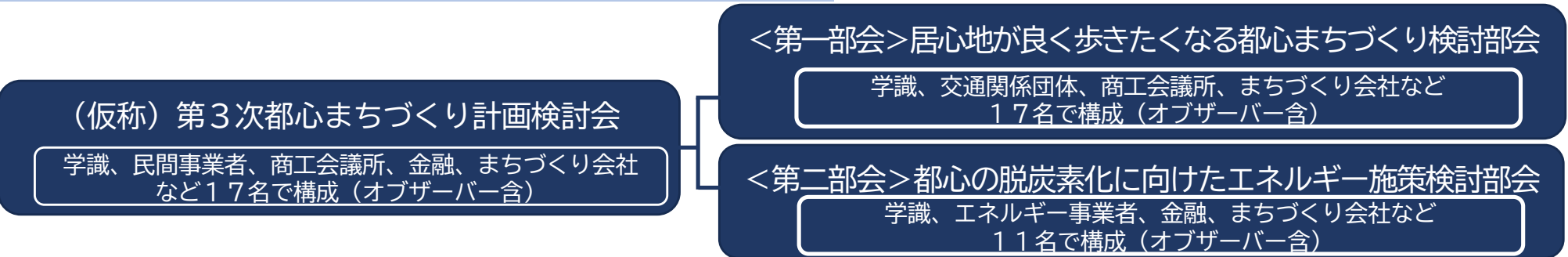
1	計画改定の経緯P2
2	計画骨子案	
	(1) 計画構成P3
	(2) 序章 計画策定の背景P4
	(3) 第1章 計画の目的と位置づけP4
	(4) 第2章 現状と課題P5
	(5) 第3章 理念・目標と都心の構造P6
	(6) 第4章 取組の方向P8
	(7) 第6章 取組の進め方P12

1 計画改定の経緯

(1) 都心まちづくりの計画体系



(2) 計画見直しの検討体制

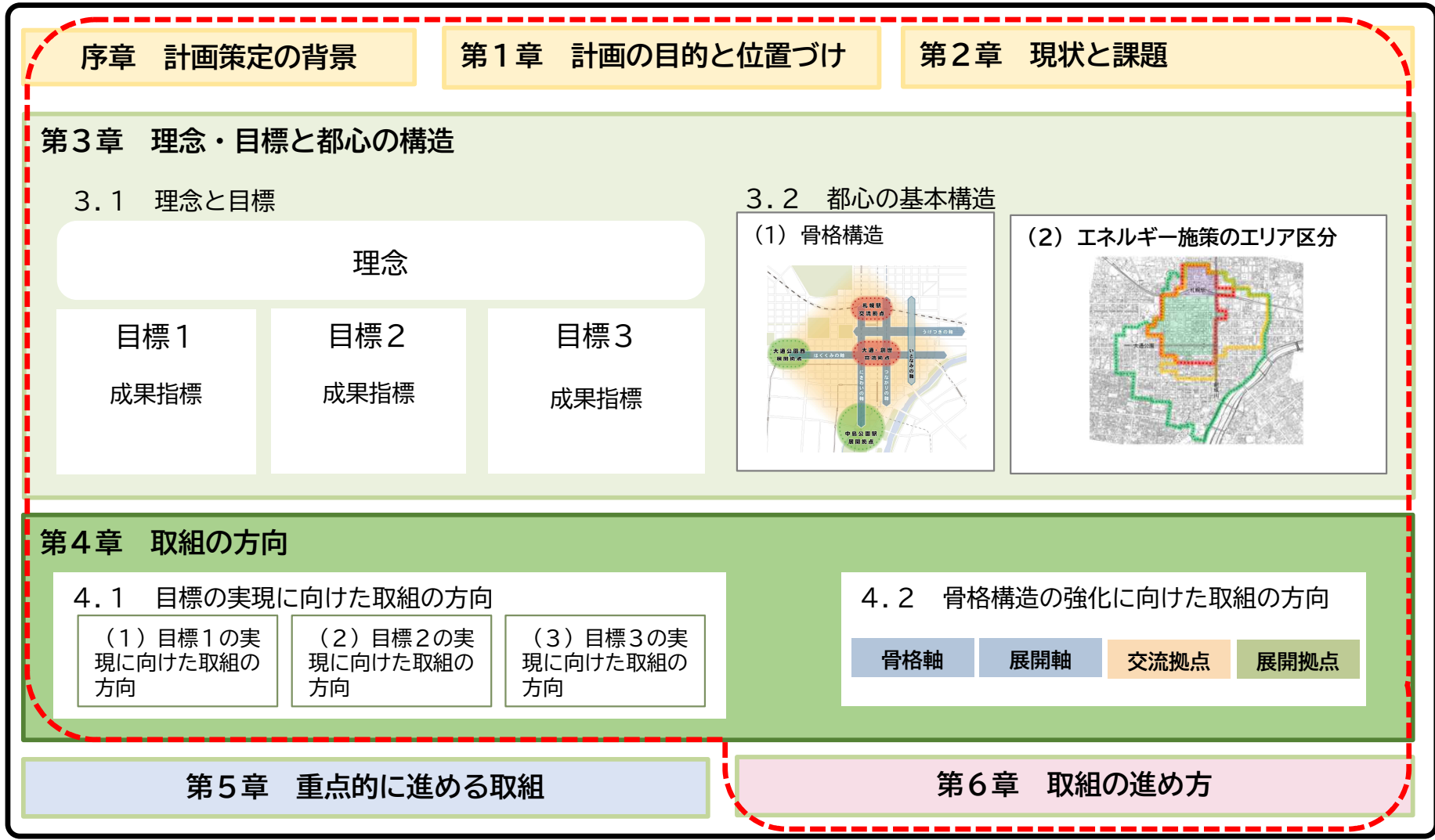


(3) スケジュール

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討会			▼第1回	市民アンケート等		▼第2回					▼第3回	
部会				▼第1回 (振り返り、課題・論点整理)				▼第2回 (将来像、基本方針、目標など)		▼第3回 (骨子案)		
令和7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討会			▼第4回			▼第5回	庁内合意形成			パブコメ	▼第6回	▼策定
部会		▼第4回 (素案)			▼第5回 (計画案、推進体制)							

2 計画骨子案

(1) 計画構成

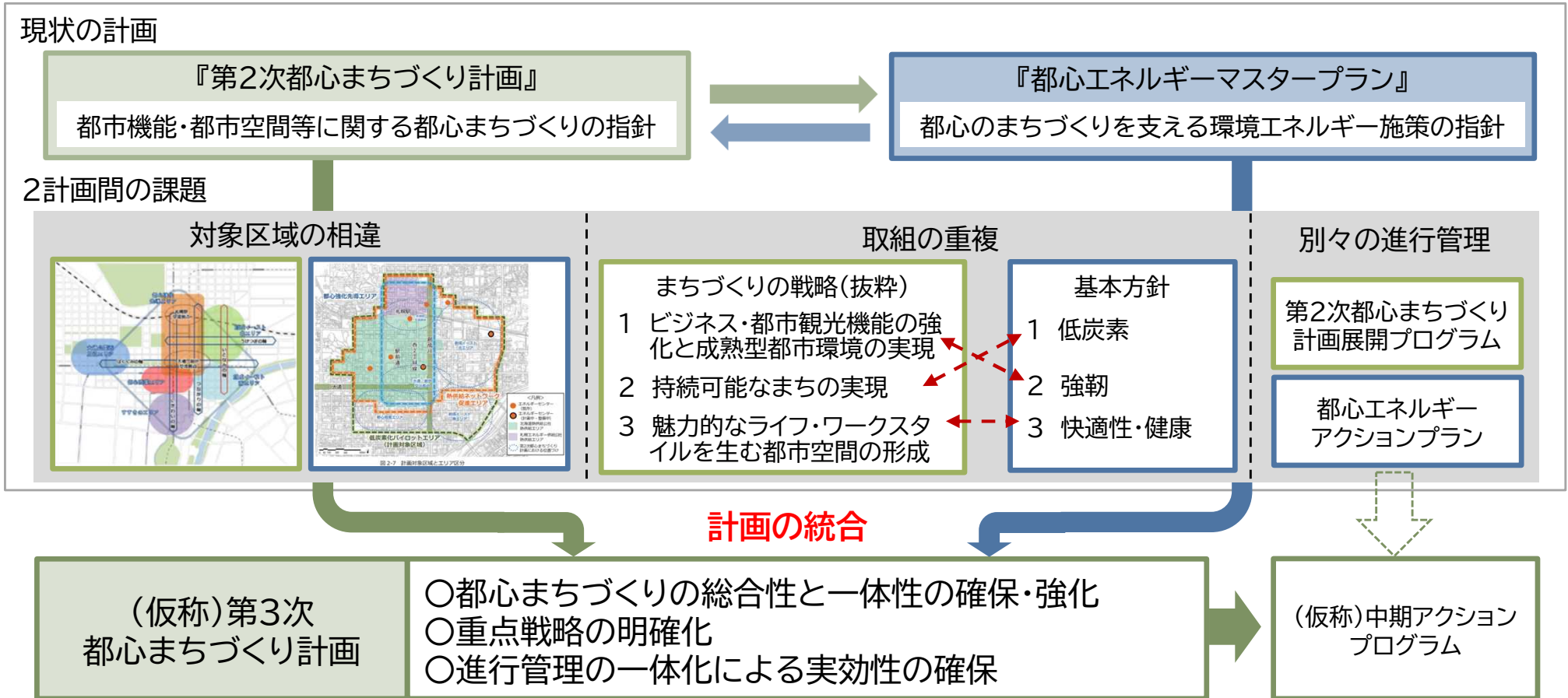


(本計画策定後に整理することを想定) 中期アクションプログラム
基本方針に即した具体の取組・施策

2 計画骨子案

(2) 序章 計画策定の背景

✓ まちづくりとエネルギーの計画を別々に策定していることによる課題を踏まえ、両計画を統合



(3) 第1章 計画の目的と位置づけ

○長期的なビジョンの明確化

- ・市民・事業者等とビジョンを共有する
- ・国内外へ札幌都心の可能性・魅力を発信する

○「公民連携による推進方策」の共有

- ・「公民連携によるまちづくりの取り組み方」を提示し、計画の実行性を確保する

✓ 札幌市第2次まちづくり戦略ビジョンや、札幌市都市計画マスタープランの見直し状況を踏まえ、計画期間はおおむね20年間に設定

2 計画骨子案

(4) 第2章 現状と課題

第2次都心まちづくり計画策定後の主な社会経済状況の変化

胆振東部地震・ブラックアウト
(2018年)

(災害リスク低減・都市の強靱化に対する認識拡大など)

新型コロナウイルス感染症
(2019年~)

(デジタル化の必要性、地方移住への関心の高まり、消費行動の多様化など)

都心のまちづくりの新たな動向

(北海道新幹線の札幌開業、GX金融・資産運用特区の指定、道内における半導体産業の集積など)



都心まちづくりの課題



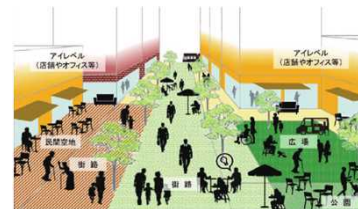
GXの取組等を踏まえた更なる高次機能集積が必要

観光やビジネスを含め多様な目的で訪れる人々の受入環境の充実が必要



パブリックスペースの更なる充実と柔軟な活用が必要

気候変動による災害リスクの高まりへの対応が必要



魅力的なストリートを増やし回遊性を高める必要がある

公共交通や物流など様々な交通機能の維持・向上が必要



様々な技術革新を取り込みCO2排出量を更に削減することが必要

確実な進捗管理と機動的な見直しを行うことが必要



これらの課題に柔軟かつ機動的に対応し、将来につながる都心のまちづくりを着実に進めることが必要

2 計画骨子案

(5) 第3章 理念・目標と都心の構造

〈都心まちづくりの理念〉

世界が憧れ、市民が誇れる、
札幌・北海道の都心

世界目線

札幌・北海道の魅力を発信し、多くのひと・もの・ことを呼び込み、新たな価値を創出する先導役として、札幌・北海道の成長をけん引していく。
世界が憧れるまちになれば、市民の暮らし方・働き方の質を高める循環を生む。

市民目線

誰もが豊かな時間を過ごせる、札幌都心ならではの暮らし方・働き方を実現する。
市民が誇れるまちになり、それを発信していくことで、より多くのひと・もの・ことをひきつける循環を生む。



目標1

多様なひと・もの・ことが集まり
新たな産業・文化・
交流が生まれる都心

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引する高次の都市機能の集積を図り、多くの人が集い交流し、まちの価値を高めていく取組の好循環を展開することで、国際競争力を備えた都心を実現します。

《指標・目標値》 《検討中》

●経済活力を評価

都心における純付加価値額
都心における固定資産税額

●魅力度を評価

都心が魅力的だと感じる市民の割合

目標2

冬でも、誰でも、
まち巡りが楽しい都心

春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬季においても、訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、歩きやすく、街にみどりやにぎわい、変化が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽しめる都心を実現します。

《指標・目標値》 《検討中》

●回遊性を評価

主要地点における歩行者交通量

●満足度を評価

まち歩きが楽しめる通りや場所が多いと評価している人の割合

目標3

気候風土に即した
先進的な取組により脱炭
素化・強靱化が進む都心

札幌特有の気候や地域特性に応じたまちづくりとエネルギー施策の一体的な取組の展開により、将来に渡り発展し続けるとともに安全・安心な都市活動を支え、世界から信頼される持続可能な都心を実現します。

《指標・目標値》

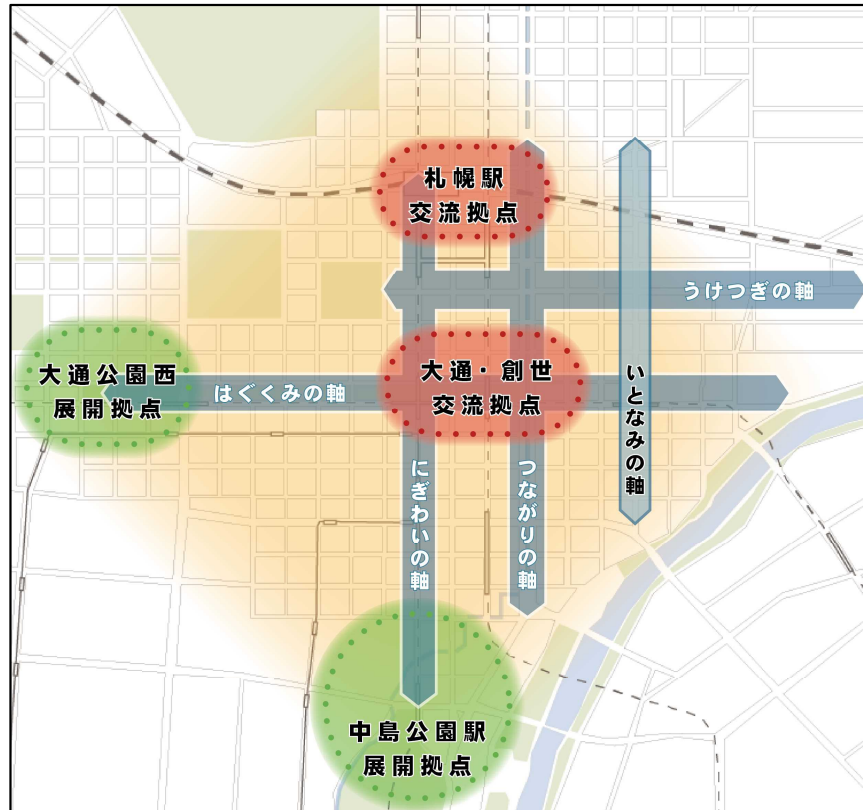
●脱炭素化の進捗を評価

2050年のCO2排出量実質ゼロ

《2013年度比で100%削減》

2 計画骨子案

(5) 第3章 理念・目標と都心の構造



【軸】 4骨格軸-1展開軸を継承

先導的な取組をさらに推進し、周辺街区への面的な波及、地区間の連続性を高める基軸として、現行計画を継承。

【拠点】 2交流拠点+2展開拠点の設定

現行計画の2つの交流拠点は、都心全体のまちづくりを先導する取組を推進するため、引き続き設定。
都心及び骨格軸の西端と南端にあたる2拠点は、地域特性を活かしたまちづくりを重点的に展開していく必要があり、**新たな活動・交流を育む「展開拠点」として追加。**

【軸と拠点の目指す方向】

骨格軸	にぎわいの軸 (駅前通)	札幌の目抜き通りとして、都心の回遊性をけん引し、にぎわいをつなぐ軸
	はぐくみの軸 (大通)	大通公園と沿道が一体となり、札幌都心の象徴性を高め、新たな価値をはぐくむ軸
	つながりの軸 (創成川通)	広域から都心へのアクセスを支えながら、東西のまちのつながりを生む軸
	うけつぎの軸 (北3条通)	東西の回遊を促す、歴史や文化の魅力あふれる街並みをうけつぐ軸
展開軸	いとなみの軸 (東4丁目線)	交流と活気にあふれる沿道から職・住・遊のいとなみを感じる軸
交流拠点	札幌駅 交流拠点	広域的な交通網が結節する札幌の玄関口として国際競争力を先導する拠点
	大通・創世 交流拠点	はぐくんできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点
展開拠点	大通公園西 展開拠点	都心西側の回遊拠点を形成し、美しいみどりや歴史・文化芸術を生かした多様な交流をはぐくむ拠点
	中島公園駅 展開拠点	地域に培われた歴史・文化と新たな集客・交流機能が調和した都心南端の拠点

2 計画骨子案

(6) 第4章 取組の方向

多様なひと・もの・ことが集まり
新たな産業・文化・交流が生まれる都心

(1) 目標1の実現に向けた取組の方向

1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

- 1-1-1 アジア・世界に誇れる先進的なビジネス環境の形成
- 1-1-2 北海道観光の玄関口にふさわしい機能の集積
- 1-1-3 多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実
- 1-1-4 地域特性に応じた機能の誘導

1-2 札幌らしい「都市のブランド力の強化」

- 1-2-1 エリアの魅力や個性の発揮
- 1-2-2 誰もが快適に過ごせる環境の整備
- 1-2-3 みどりのうるおいと木のぬくもりを感じられるまちの形成
- 1-2-4 札幌らしさが際立つ魅力的な景観の形成

1-3 シティプロモーションの強化

- 1-3-1 都心の魅力や価値を国内外に届けるシティプロモーションの強化

冬でも、誰でも、
まち巡りが楽しい都心

(2) 目標2の実現に向けた取組の方向

2-1 札幌都心ならではの「魅力的なストリークの形成」

- 2-1-1 格子状の街路網の特徴を生かした、ストリークの魅力や個性の創出
- 2-1-2 選択性が高く、多様性に富み、みどり豊かな、回遊したくなるストリークの形成
- 2-1-3 積雪寒冷地ならではの屋外空間における魅力的な景観形成や賑わいの創出

2-2 都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

- 2-2-1 都心に必要な交通機能やアクセス環境の確保
- 2-2-2 四季を通じて快適に移動できる環境の充実

2-3 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

- 2-3-1 パブリックスペースにおける多様な活動や魅力的なコンテンツの創出による賑わい・交流の促進
- 2-3-2 雪という札幌の個性を生かした、パブリックスペースの冬の利活用の促進
- 2-3-3 限られた道路空間の運用の全体最適化
- 2-3-4 関連分野と連携した取組

気候風土に即した先進的な取組により
脱炭素化・強靱化が進む都心

(3) 目標3の実現に向けた取組の方向

3-1 最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

- 3-1-1 建替更新・改修時の徹底した省エネ化の推進
- 3-1-2 エネルギーの面的利用の更なる拡大と効率化
- 3-1-3 先進技術を活用した再生可能エネルギーの導入

3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築

- 3-2-1 災害時における市民、来街者、ワーカーの安全確保
- 3-2-2 経済活動を維持するための備えの充実
- 3-2-3 多様な主体による防災に向けた取組の促進

3-3 先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

- 3-3-1 建物の特性に応じた効果的な取組誘導
- 3-3-2 着実に脱炭素化を推進するための実績評価

→ 以上を踏まえ、地域別の機能誘導方針の設定を検討(P9)

→ 以上を踏まえ、重点取組路線の設定を検討(P10)

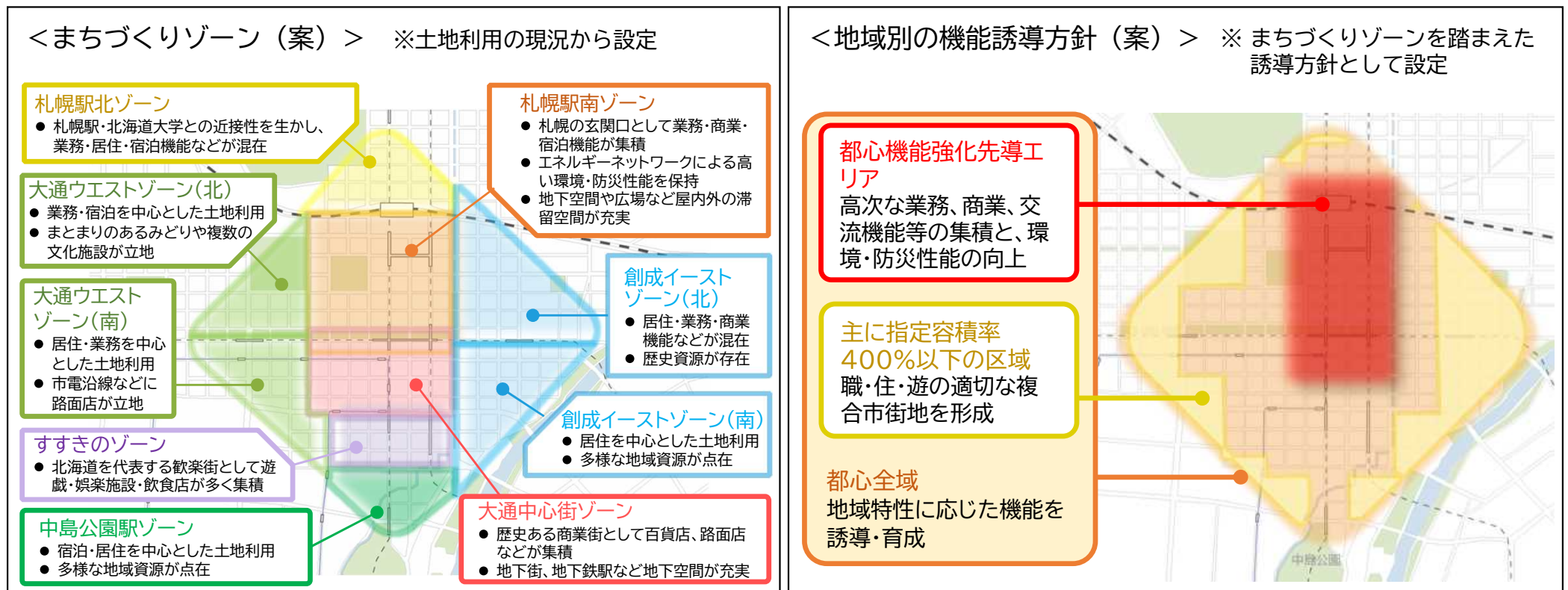
→ 以上を踏まえ、エネルギー施策のエリア区分とエリア別の取組の設定を検討(P11)

2 計画骨子案

(6) 第4章 取組の方向

ア 地域別の機能誘導方針の設定に向けた検討状況

- 土地利用の現況や地域資源などから地域特性を整理。(左図：まちづくりゾーン(案))
- 今後、各地域の特性やまちづくりの動向に応じて誘導・育成する機能(業務・商業・集客交流・宿泊・教育・居住・生活利便等)を示していくことを検討。

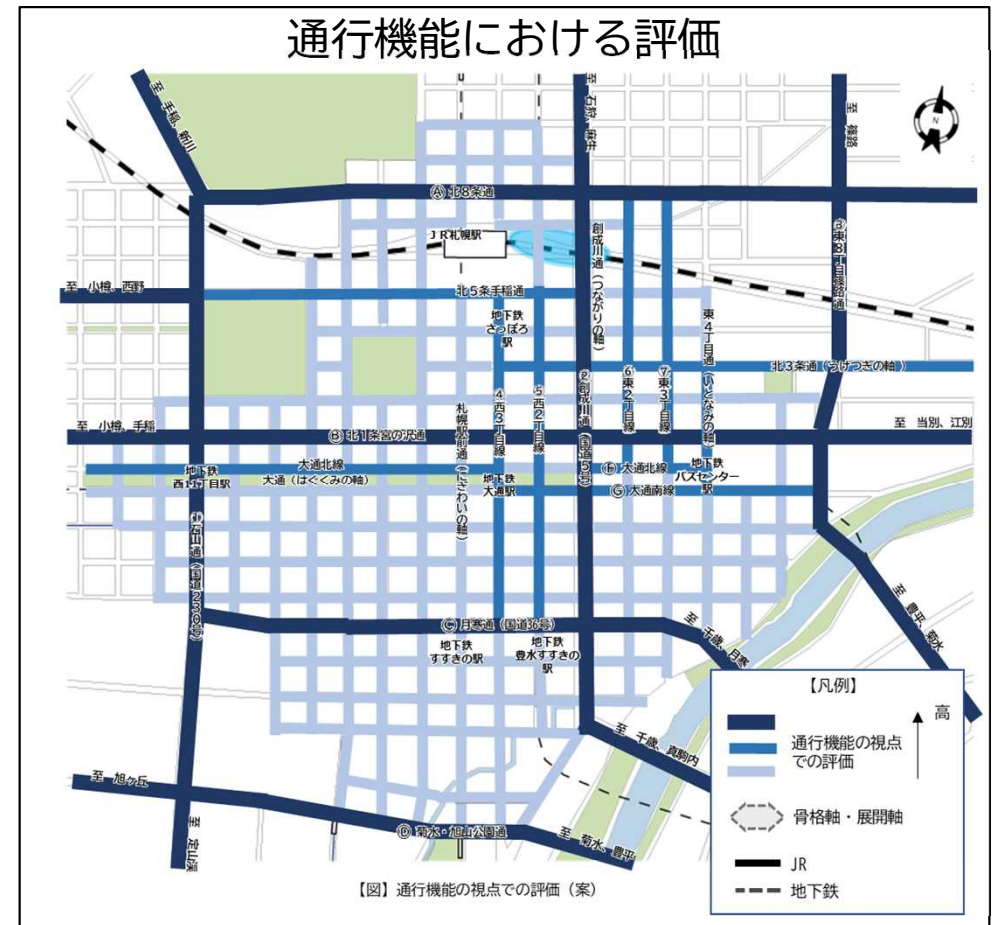


2 計画骨子案

(6) 第4章 取組の方向

イ 重点取組路線の設定に向けた検討状況

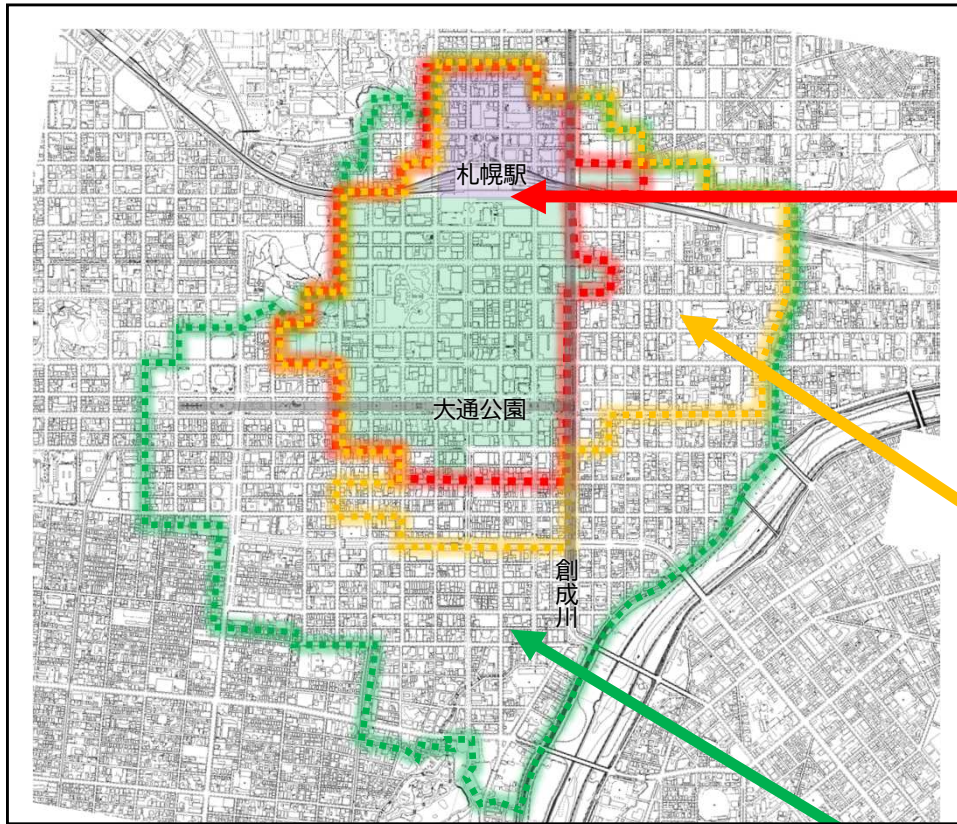
- 都心の基本構造等を踏まえつつ、歩行者の回遊や滞在の視点と、自動車の通行の視点で各路線の性格付けを整理。
- 部会での議論を踏まえ、今後、重点取組路線や各施策を検討。



2 計画骨子案

(6) 第4章 取組の方向

ウ エネルギー施策のエリア区分とエリア別の取組の設定に向けた検討状況



■:熱供給エリア(札幌エネルギー供給公社)

■:熱供給エリア(北海道熱供給公社)

脱炭素化促進エリア

都心のエネルギー利用に関する進捗管理を行う区域として、小規模な建物や既存の建物も含めて脱炭素化を促進するエリア

脱炭素化・強靭化先導エリア

既存の熱供給ネットワークインフラの積極的な活用による脱炭素化の実現と強靭性の確保により、世界から信頼される持続可能な都心に向けた取組を先導するエリア

熱供給ネットワークインフラの活用

様々な都市機能の集積

都市開発が活発

- 熱供給ネットワークインフラへの接続
- 大規模開発等と連動したエネルギーセンターの整備
- 複数のエネルギーセンター間の連携に向けた熱導管の拡充
- エネルギーセンターの脱炭素化に向けた新技術の導入

脱炭素化推進エリア

建物の更新や面的開発の機会を捉え、最適な手法の組み合わせにより脱炭素化を推進するエリア

都市再生に寄与する都市開発が進展

- 面的開発が検討される場合は、複数街区間で最適なエネルギー利用がなされるよう拠点型熱供給等を誘導

個別的な建替えや改修が進展

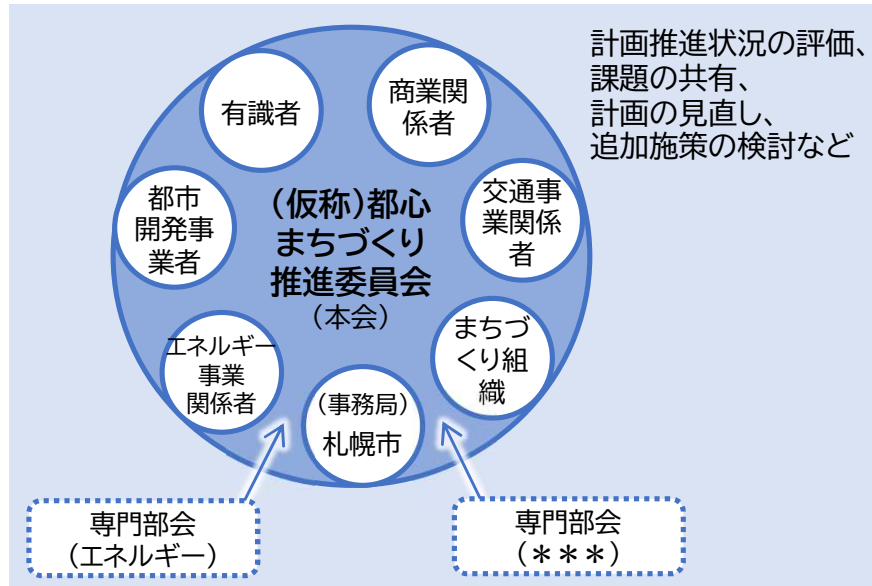
- 建物の立地・規模・用途構成等に応じた脱炭素化の取組を誘導
 - ✓ 比較的大規模な開発については、個々の建替え時における徹底した省エネと太陽光発電設備の導入によりZEB・ZEH-M化を誘導
 - ✓ 小規模な建物については、ZEB・ZEH-M・ZEH化や省エネ改修等に係る支援策を効果的に活用

2 計画骨子案

(7) 第6章 取組の進め方

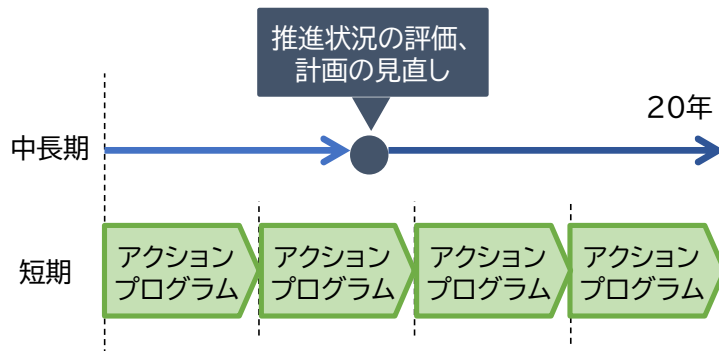
ア 計画の推進体制

- 次期計画では、多様な主体が参画する「(仮称)都心まちづくり推進委員会」を設置し、適切な進行管理を行う



イ 具体的取組を定めるアクションプログラム

- 計画に即した具体的取組・施策をまとめた(仮称)中期アクションプログラムをおおよそ5年ごとに策定



ウ 連鎖的な取組の展開

- まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性の向上
 - 札幌都心E! まち開発推進制度に基づく事前協議の機会等を通じて、建物の脱炭素化とエリア価値の向上の双方につながる良好な開発を誘導・調整するなど、まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性の向上を図る
- エリア別・テーマ別の取組のさらなる充実
 - 新たなエリアにおけるエリアマネジメントの育成や、エリア相互の連携を支援するとともに、エリアに即した開発を地域が誘導する取組や、エネルギー・防災など新たなテーマへの取組を支援
 - エリアを横断あるいは都心全体を対象とした、民間主体による課題解決やテーマに応じた取組に対しても、支援・連携を図る

エリアによらない
課題解決や
テーマに応じた連携

エリアマネジメントの
横連携・取組の強化

